

Title	アレクザンダー・ハミルトンの財政経済論集
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1934
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.28, No.12 (1934. 12) ,p.1945(109)- 1947(111)
JaLC DOI	10.14991/001.19341201-0109
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19341201-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

然都會主義的たるを免れぬ様である。第三編第三章の「快適としての田舎」の如きは、表題既に前に述べた様な觀點を示してゐる。恐らく農村計畫としては、前掲の三位一體、即ち「美、健康、便益」の内、「健康と便益」が首位に置かれて設計せらる可きものではなからうか。都市計畫は恐らく、農村計畫へとも發展すべきものであらう。現代都市の壯觀にのみ専心すべきが任務ではなからう。唯、今迄の都市計畫は、農村との關聯あるにしても余りに都會主義的であつた。此の觀念から一掃される必要が多分にあらう。

こゝで此の評言を終らう。是等の評言は恐らく本書著者一人に向ける可きではなからう。否本書者に對して、評者が多大の同感を有する點は、本文中に既に明かである。唯、都市計畫を發展せしめて地方計畫と云ひ綜合都市計畫と云ふ時、吾々は、計畫内容に於いて受動的たらざるを得ぬ一部、即ち農村地方に對して同情を感じる。尤も、是等の一部に對する「健康、便益」の確保こそ、社會科學研究者の第一任務であらう。

(昭和九年十一月二十五日)

附記 なほ論ず可き點があつた。都市計畫法制の如きそれである。此の點については、本書以外に最近出たものとして、H. Chapman, Town and Regional Development, A Guide to the Town and Country Planning Act 1932. がある。共に論ず可きであらうが、割愛した。従つて筆者の評言は、都市計畫論の根本精神にのみ始終した傾がある。それ丈け本書著者は、是れはづれとして多大の苦笑を感ぜられるであらう。

アレクザンダー・ハミルトンの財政經濟論集

高橋 誠 一 郎

米國の大政治家アレクザンダー・ハミルトン(Alexander Hamilton)が、一千八百〇四年七月十一日、ニュー・ジャージーのウイホッケン町に於いて、當時副大統領の任に在つた其の政治上の論敵アーロン・バー(Aaron Burr)と決闘して、致命傷を被り、翌十二日を以つて逝去してから今日に至るまで一百三十年の歲月が流れた。而も此の北米合衆國建國創業時代の大政治家は一部の論者によつて、恰も今日世界を悩ましめつゝある諸問題を明瞭且つ有力に解釋せるものと稱せられてゐる。

ハミルトンは一千七百八十九年九月、壯齡三十二にして大統領ワシントンに拔擢せられて大藏大臣と爲り、米國財政の基礎を固めた。恐らく如何なる財政家と雖も、彼れの如く短少なる期間中に多數の難問題を提示せられたものは存することがなかつたであらう。彼れは一千七百九十年二月十四日公信用に關する第一報告を、同年十二月十四日國立銀行に關する報告を、一千七百九十二年十二月五日製造業に關する報告を下院に致し、一千七百九十五年一月十六日及び二十一日公信用に關する第二報告を上院に致した。彼れの財政經濟上に於ける思想を知らんと欲するものは、先づ斯くの如き諸報告に據らなければならぬ。而して、是れ等の諸報告は其の子ジ・シー・ハミルトンが一千

八百五十一年に出版せる其の著作集七巻中の第三巻、米國の歴史家にして政治家たるロッジ(Henry Cabot Lodge)の編纂せる一千八百八十五年の著作集十巻中の第二巻及び第三巻並びに American State Papers. の第一巻中に看出される。而も今日に於いて是れ等浩瀚なる刊行物を座右に備ふことは必ずしも容易ではない。彼れが一千七百七十三年に入學し、同七十六年に卒業したキングス・カレッジの後身コロムビア大學の出版部は本年ルート(Ethan Root)の巻頭の辭を添へ、同大學歴史教員マッキー(Samuel McKee)の編纂せる以上の諸報告並びに一千七百九十一年二月二十三日の合衆國立銀行の合憲法性に關するワシントン宛の信書を世に公にした。Papers on Public Credit, Commerce and Finance by Alexander Hamilton. が是れであつて、前掲ロッヂ版からの拔萃である。

マッキーは曰く、「ハミルトンは其の公信用に關する二報告、其の銀行に關し、又製造業に關する通牒に於いて彼れが總べての經濟的階級の福利の爲めに備ふ可きものと信じた施政の計畫を提示した。そは直接の必要と等しく豫期せられたる將來の産業的變化をも考慮せる計畫であつた。そは計畫的國民經濟ではなかつたかも知れぬが、而もそは慥かに指導的、統制的經濟であり、個人的才能及び元氣の強烈且つ有利なる力を全國民の福利に適合せしむ可きものであつた」と。(ibid., p. x.)。然しながら、彼れの所論は「あらゆる國に於いて、農業は人間の勤勞の最も有利にして生産的なる對象である」と做すが如き主として米國南部の農業資本の利益と一致する幾多の工業獎勵反對意見に對抗して、保護關稅を希望する同國北部の商工業資本の利益を代表し、工業的勞働は不生産的に非ざることとを主張し、而して巧妙に工業及び農業の相互的利益を唱道するものであつたことを記憶しなければならぬ。(cf., ibid., pp. 177 ff.)。而して彼れが減債基金を増加し、之れをして合衆國の全債務と均衡せしめんとしたことは、又、公債所有階級の利益と一致するものでなければならなかつた。(cf., ibid., pp. 141 ff.)。彼れは先づ第一に、

結合せしめらるゝことが最も容易であり、且つ小心怯懦なる集團が債權者、金融資本家、銀行業者並びに貸金業者より成ることを知つて居つた。彼れは是れ等の人々の利益を新政府の其れと一致せしむるによつて、能く後者を強固ならしむ可きことを見たのである。(Charles A. Beard, An Economic Interpretation of the Constitution of the United States, 1923, p. 101.)